

## 行動する協議会に

南部地域づくり協議会  
会長 佐藤 義明



雪もなく穏やかに新しい辰年を迎えることができたと思っていた矢先、能登半島地震と羽田空港での衝突事故というショッキングなニュースが飛び込んできました。被災地の惨状、避難している人たちの状況などを見ると心が痛みます。心からお見舞いを申し上げます。さて、南部地域づくり協議会では令和5年度、これまで別々に進めてきた「まちづくり事業」と「企画事業」を一本化するなどとして、若い人たちの行動力と感性を事業運営に生かすべく

活動してきました。いくつかピックアップすると、  
①「第8回なんぴあまつり」。南部地域子育て支援ネットワーク連絡会の協力も得て子どもを中心としたイベントを企画、過去最高の3,000人超が参加。  
②「適正化配置」に関連。南部地域選出の市議のみなさんの協力を得て、小中学校の新たな通学路確保に向けた動きが前進。  
③「みんなのまなびば&みんなでごはん」。家でもなく学校でもない子どものもう一つの居場所づくりとして取り組み、子どもたちに好評。  
④「初の新春コンサート」。ピアノとバイオリンのジャズで盛り上がった。協議会のイベントが縁でつながった国際教養大のジャズ研の皆さんも参加。  
こうした取り組みは地域の皆さんの理解と協力なしではできない事業です。行動する協議会としてさらに前進したいと考えています。皆さんのより一層のご支援をお願いして、「なんぴあだより」発行にあたってのあいさつとさせていただきます。

## 「JAZZで世界旅行」新春コンサート150人が楽しむ



令和5年度のなんぴあ新春コンサート(魅力アップコンサート)が1月14日、なんぴあ地域文化ホールを会場に行われ、150名がジャズで世界を旅しました。ジャズピアニスト早川泰子さんとバイオリニスト北嶋奏子さんが演奏。メロディーにリズムを加え「JAZZ」になるまでの解説を交えながら、時には魔法の絨毯に乗り、時にはパリの街並み、そして月までの全9曲で、参加者を素敵に旅へと誘いました。

「音楽は、楽しい時、つらい時も私達の心に寄り添ってくれている。今日のコンサートがみなさんの心の糧になれば…」という、企画・まちづくり検討委員会・棟委員長のオープニングメッセージの通り、冬の寒い時期に心あたたまる午後のひとときでした。コンサートでは国際教養大学ジャズ研がオープニングに登場。ジャズのスタンダードナンバー「A列車で行こう」をアレンジした「幸せなら手を叩こう」を含む全4曲を披露、会場が一体となりました。

## 企画・まちづくり検討委員会 ◆地元産野菜と季節を体験◆ 児童たちとワークショップ

南部地域づくり協議会の企画・まちづくり検討委員会は令和5年度、ボランティアとして参加してくれた国際教養大学の学生や秋田高校の生徒とともに小学生を対象にした事業を開催しました。その一つは「みんなのまなびば&みんなでごはん『新米おにぎり&豚汁』」(11月18日)。南部地区産の野菜を味わうこと、そしてみんなで学ぶ場にしようとして実施したもので、地元農家が提供してくれた新鮮野菜で作った豚汁、おにぎりを味わいました。

また、二つ目の「みんなのつどい『鏡餅づくりワークショップ』」(12月16日)は、子どもたちがつきたての熱々の餅に悪戦苦闘しながら「自分だけの鏡餅」を作りました。二回とも初めての試みで、8月10日にプレイベントを開いて課題を洗い出し、本番へとつなげました。子どもたちは、ボランティアの学生たちに学習のアドバイスを受けながら自ら学び、一緒に食事をとりながら、賑やかな時間を過ごしました。



紙面案内	2~3ページ	各地区の話題・活動報告(上北手、御所野、牛島、四ツ小屋、仁井田、大住)
	4ページ	なんぴあまつり 三浦所長「地域への期待」、サークル連合会、サークル紹介、秋田市議会南部議員団との懇談会、編集後記



「思ひごと」  
南部市民サービスセンター  
所長 三浦 まゆみ

今年も雪もなく、穏やかに年末年始を過ごせると思っていたところ、元旦から予期しない痛ましい災害や事故に見舞われました。能登半島地震、そして羽田空港での飛行機事故でお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

昨年、記録的な大雨被害を経験した私たちにとって、未だ余震が続く中、様々な不便を強いられている被災地の状況は決して人ごとではありません。被害にあわれた皆さまには心からお見舞いを申し上げます。昨年は、新型コロナウイルスが5類となり多くの賑わいが戻った一方で、夏の猛暑、大雨による甚大な被害、フマ出沒など、加速する気候変動の影響が新たな脅威とならざるを得ないことを強く感じた年でもありました。7月の大雨の際には、なんぴあ本館、別館、大住・仁井田3センターに約200名の方々が避難され、すでに地域の自主防災組織の方々が駆けつけてくださったり、ひとりで避難できない方々を地域の方々が連れてきてくださるなど、多くのお力添えをいただきました。また避難所の中でも、皆さんで声をかけ合ったり、介助が必要な方の移動をお手伝いくださるなど、避難所運営が大変助けられたことに感謝しております。いつ何が起きるかわからない今の時代、いざという時に頼りになるのは「遠い親戚より近くの他人」なのかもしれません。

私が所長に就任してこの2年間、地域をより良くしたいという使命感を持って地域活動に取り組み皆さまと知り合い、たくさん刺激をいただきました。南部には、それぞれの特色を大切にしながら、一方で、そのような地域活動に興味を持ちながらも関わり方がわからなかったり忙しかったり、また繋がっていない方も多いのではないのでしょうか。年齢にこだわらず幅広い世代の住民が一緒に関わりを持ちながら育む地域の絆は、いざという時に大きな力になるはずです。地域に住む皆さんが勇気を持って一歩踏み出せるような活動が今後ますます展開され、南部地域がより住みやすく発展していくことを期待申し上げます。

## 視察研修、秋の清掃、輪投げ 登録サークル会員が集い交流 なんぴあサークル連合会主催事業



視察研修は11月1日、なんぴあ本館、別館から計75名の方々が参加。男鹿市のなまはげ館、男鹿真山伝承館を訪れ、国指定重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産である「男鹿のナマハゲ」の歴史に触れるとともに、なまはげの迫力も体験しました。

秋の清掃活動は9月5日、なんぴあまつり(9月2、3日)後の実施でした。平日開催でしたが74人(本館27人、別館47人)が参加、普段は手の回らないところまで丁寧に清掃しました。

また、輪投げ大会は7月30日、午前本館、午後・別館で開催。記録的な大雨で浸水被害を受けた会員もあり、参加自粛したサークルも、それでも31チーム155人が参加、高得点を挙げた。会場は大きな歓声に包まれていました。2月25日にはスカットボール大会を計画しています。

## 本館

### スイブル・シクラメン

老人施設などを訪問しているグループの松野男さんが中心となり、「なんぴあ開設の年(平成26年)に結成メンバー13名で社交ダンスを楽しんでいます。最上級は89歳の女性。背筋がピンとしていて年齢を感じさせないキラのある動きが目を引きます。講師はいませんが、昔の経験、他のサークルで学んだステップを思い出しながら、体力増進と認知症予防を目的に、3人は気にせず仲良く活動しています。年に2回ほど食事会を計画。健康の秘訣や人生観など語り合い、交流を深めています。



## サークル紹介



例えは「身体の柔軟性を高めるストレッチ」日常生活に必要な筋肉を強くするための体操など。休憩時間には、仲間と情報交換(ほとんど痛みに関する話題)したり、先生に相談したりしながら和やかな時間を過ごしています。

## 別館

### 元気アップ体操クラブ

活動日 / 第2・第4金曜日 午前9時~正午

## 秋田市議会南部議員団との懇談会 牛島の跨線橋 拡幅問題が前進

秋田市議会南部議員団と南部地域づくり協議会との懇談会が9月25日、なんぴあ地域文化ホールで開かれた。令和4年4月に第1回懇談会、昨年1月に第2回懇談会を開催、今回が3回目。いくつか課題がある中で大きく進展したのが牛島車庫基地跨線橋の問題。秋田市側が県有地、市有地、民間所有の土地を活用した「歩行者、自転車専用」の新たなルートを検討していること、また、橋の拡幅に比べて「コスト削減」となること、安全面についても別ルートを利用することで協議会からの要望、提案をクリアできそうなどから懇談会として道路維持課に対し、繰り返し要望したことが成果となった。懇談会は今後も継続し、南部地区が抱える課題解決に向けて議論していくことになった。



## 編集後記

今年の干支は「辰」。春の日差しが、あまねく成長を助ける年になる」とも考えられています。が、元月早々に能登半島地震が発生。被害は甚大で、被災された方々の胸中が如何ばかりかとお察し申し上げます。コロナも類になり、各地域で従来のように活動が活発に行われています。当南部地域づくり協議会でも、最大のイベントである「なんぴあまつり」は盛況で、特にちびっこ縁日に来館されたお子さんたちが各ブースで挑戦する姿に感動しました。また、1月14日に開催したジャズコンサートには大勢集まっていたいただき、会場は満席状態。ほかにも「みんなのまなびば&みんなでごはん」など、さまざまなイベントを開催しましたが、ご協力いただいた多くの方々にご感謝申し上げます。19号は盛りだくさんの内容になりました。発行にあたりご寄稿いただきました皆様へ御礼を申し上げます。(広報委員長 鈴木久美)

上北地区

## 住民待望のコミセンオープン

上北地区コミュニティセンター  
管理運営委員会 会長 鈴木 一弘

上北地区コミュニティセンターが令和5年10月10日、移転・新築リニューアルオープン、その前日には穂積志市長や関係市議会議員、そして多くの地域の方たちも参列、竣工式典と記念祝賀会を行った。

同コミセンは平成25年4月1日に地域センターから移行した施設。老朽化していたため、移転・新築は上北地区(上北手、山手台、南ヶ丘、県住南ヶ丘)住民の長年の願いだった。

新しくなったコミセンでは早速、コロナ禍でできなかった「上北手コミセン祭り」を3年ぶりに開催(11月26日)。城南中学校吹奏楽部が素晴らしい演奏を披露し、記念行事にふさわしい盛り上がりとなった。

新施設には洋室(約15畳×2、約12畳×1)や調理室(約15畳)、ビニールバレーやパドミントン、卓球、3×3バスケットなどの軽スポーツや集会ができる多目的ホールがある。

地域のみなさんの健康増進、交流・親睦の場、災害時の避難場所でもあり、安全で楽しいコミュニティづくりの拠点として大いに活用していただきたい。



御所野地区

## 中学生と住民が共に地域の未来考える

御所野連合町内会 会長 杉山 徳美

御所野連合町内会では2019年に『御所野街づくり計画エイジフレンドリータウンの実現』を策定、年度ごとにさまざまな活動を進めてきました。2023年度は若者の意見を反映しようと、御所野学院中学校の生徒と、地域住民とともに8つのグループに分かれ、数回にわたって懇談会を開催。



生徒たちの意見を反映した企画・イベントを練り、生徒と住民が一体となって実現させることができました。

その内容、成果は表の通りですが、12月14日には御所野学院中学校で『エイジフレンドリータウンの実現』と銘打った報告会を開き、生徒と地域住民が一緒になって御所野の未来を共に考え、語り合う有意義な時間を共有しました。御所野連合町内会及び御所野各地域団体は、今後も幅広い年代とともに、御所野の街づくりを進めてまいります。

【各グループのテーマと活動成果】

開催時期	テーマ	成果
① 6月	若者と地域住民が交流する街の実現	地域住民との懇談会を開催。
② 8月	みんなが楽しくなる街の実現	御所野夏まつりに生徒100名が参加。地域住民の指導を受け、浴衣で盆踊りを楽しみ、樽(やぐら)上で太鼓演奏も。
③ 8月	音楽で楽しい街の実現	御所野学院吹奏楽部が御所野夏まつりで演奏。
④ 9月	スポーツイベントで健康な街の実現	御所野マラソンにて企画運営。
⑤ 11月	若者と地域住民が交流する街の実現	茶話会を企画運営。
⑥ 11月	若い共働き世代にやさしい街の実現	御所野小にて児童に読み聞かせ実施。
⑦ 11月	多世代が社会貢献できる街の実現	登校時にゴミ拾いボランティア。
⑧ 11月	魅力的な街の発信実現	学校HP内に御所野チャンネルを開設。



牛島地区

## “手打ち蕎麦体験”で年越しをしました

まちを健康で明るくする皆の会 事務局 河内 信雄

牛島地域包括支援センターのワークショップ終了後の令和3年1月、有志で作った「まちを健康で明るくする皆の会」。牛島地区振興会の共催を得て、牛島のみんなに活力を与えるイベントを2カ月に1回位の割合で実施してきましたが、設立から3年で21回を数えるまでになりました。

毎年実施しているのは“手打ち蕎麦体験”。令和3年12月に「蕎麦を打ってみたい!」という声が出たことをきっかけに、定員5名で3年と4年は3回、5年は2回行いました。講師はいずれも中場町内会長の鈴木久美さん。会場の遊学舎には鉢(直径68センチ・最初にそば粉を練るハチ)、麺棒、のし板(90センチ四方)、まな板、蕎麦切り包丁、こま板(右手で蕎麦を細く切る時に、左手側で支え役をする板)、計量カップなどの蕎麦打ちに必要な道具一式が5人分揃っています。

令和5年の2回は12月8日と19日。材料のそば粉、つなぎ粉、打ち粉は講師が用意してくれた。1回目の8日は5人参加、午前中講師の蕎麦打ちを見学し、それを食べた後、午後から講習という流れ。終わってから参加者の一人(右上写真右端)が講習の内容をまとめて8頁の冊子を作ってくれて吃驚しました。



2回目は参加者のうち3人が経験者(左写真)でした。「さらに上達することを目指し、経験者の講習も続けて欲しい!」と要望されました。参加した皆さんは、自分の打った年越し蕎麦を食べて、良い新年を迎えてくれたようです。

大住地区

## 30周年の節目に飛躍誓う

大住学区振興会 会長 進藤 征喜

大住学区振興会と大住学区町内会長連絡協議会の創立30周年合同記念式典、祝賀会を令和5年11月19日、大住地区コミュニティセンターで行った。大住学区振興会が設立されたのは1993年、平成5年のこと。現在は28町内会に増えている。

式典、祝賀会には来賓5人のほか、振興会、町内会長連絡協議会の役員、そして28町内会関係者ら85人が出席。長年、それぞれの会に携わり、まちづくりに尽力した21人(振興会関係12人、町内会長連絡協議会関係9人)に表彰状、感謝状を贈った。

アトラクションとして大住地区、泉地区の人たちがメンバーの「いずみ太鼓の会」の6人が迫力ある太鼓の演奏を披露、式典・祝賀会を盛り上げた。

実行委員会のみなさんに感謝するとともに、さらなるまちづくりを進めることによって10年後の40周年の際にはそれぞれの会が成長、発展して欲しいと願っている。



四ツ小屋地区

## 火災対応訓練と災害時における炊き出し等の体験活動

四ツ小屋地区振興会 副会長 新田 宏光

四ツ小屋地域元気づくり協議会が継続して開催している「せせらぎ市」。今年度は来場者を対象にした「火災対応訓練と災害時における炊き出し等の体験活動」を行った。

その中で7月は秋田南消防署と秋田市消防団四ツ小屋分団の協力を得て、消火器の使い方や毛布を使った簡易担架の作り方を指導していただいた。さらに実際の火災現場を想定した煙(無害)が充満した室内を通るといった体験設備を設置してもらい、見えなくなるという怖さを実感。大人だけでなく、子どもたちにとっても、いざというときのための貴重な体験ができた。

また、8月には日赤秋田社会事業部が災害時の対応等について講習。身近にあるものでの三角巾の作り方や、米をポリ袋を使って炊く方法について教わった。参加者は一人ずつポリ袋に米(あらかじめ洗って浸水したもの)と水を入れ、空気を抜いて輪ゴムで閉じ、名前を書いて大鍋に入れ、炊き上がるのを待った。約30分後、各自の袋を取り上げて試食。それぞれ硬さなどの違いはあったものの、ほとんどの人たちはそのできばえに感心していた。近年は猛暑や豪雨といった異常気象の影響なのか、災害が頻発している。このような体験は「備えあれば憂いなし」の一助にもなった。



仁井田地区

## 歴史を紐解く「仁井田塾」について

仁井田地区コミュニティセンター  
管理運営委員会 会長 相場 隆

昨年、仁井田の歴史を紐解く「仁井田塾」を仁井田地区コミュニティセンターで2回開催しました。

発起人は長年、県生涯学習センターでボランティア活動をしている古川町内会長の加藤洋子さん。「結婚後、仁井田に住んで50年以上になるが、仁井田の歴史をほとんど知らない。学ぶ機会があれば」との思いからの企画でした。

テーマは「仁井田地名物語」(昨年7月22日、75人参加)と「羽州街道仁井田歩き旅」(昨年11月18日、63人参加)。仁井田の集落の由来や仁井田堰と新田開発などの歴史、そして羽州街道に面する二ツ屋から切上・目長田・横山までの集落、神社などの歴史を学びました。

講師はいずれも「仁井田を愛してやまない」相場利治さん(前仁井田地区民生児童委員協議会会長)。趣味のゴルフや図書館巡りで得た情報を基にした解説、さらに裏話を交えた内容は好評で、参加者からは「説明が分かりやすく、当時の情景が目に浮かぶようだった」「研修資料はしっかり調べた情報を上手にまとめており、特に年表は分かりやすかった」などの声が聞かれました。

仁井田コミセンでは今後も仁井田塾を継続開催したいと考えています。



第8回  
なんぴあ  
まつり

ちびっこ緑日、ステージ…3000人が交流  
残暑の中、初の屋外公演も開催

「第8回なんぴあまつり」が令和5年9月2、3の両日、御野場の南部市民サービスセンター(なんぴあ)で行われました。御野場開催は4年ぶり。南部地域子育て支援ネットワークの所属団体(幼稚園や保育園、民生児童委員協議会など)による「ちびっこ緑日」が人気を集めたほか、登録サークルによるステージ発表にも大勢の人たちが訪れました。入出は2日間で約3000人。ゼロ歳児から90代まで幅広い年代の人たちが「まつり」を楽しみました。

なんぴあまつり実行委員会は6月初めに始動。当日は記録的な残暑でしたが、焼き鳥やフランクフルトなど軽食部門は完売。仁井田、四ツ小屋地区、そして太平地区の農家の皆さんによる朝採り野菜の販売も好評でした。

また、初の屋外公演として「ヤートセ秋田酔楽天」がヤートセ、「こまち連」が西馬音内盆踊りを披露。その一方では健康にも目を向けてもらおうと日赤秋田看護大学の学生が血圧測定、握力測定などを行い、世代を越えた交流も見られました。

